



資料2-1

---

## 令和5年度J-GBF活動内容（案）

---

# 昨年度総会（R5.2）以降の活動報告

## 第2回ビジネスフォーラム（令和5年3月9日）

### 第1部 シンポジウム

基調講演（地球環境戦略機関理事長 武内氏）

経団連自然保護基金の新方針説明（経団連自然保護基金運営委員長 渡辺氏）

パネルディスカッション「ネイチャーポジティブ経済実現に向けた企業活動」（大成建設会長 山内氏、ユーグレナ社長 出雲氏、経団連自然保護協議会、環境省、モデレーター IGES理事長 武内氏）

### 第2部 企業とNGOの交流会兼生物多様性に関するビジネス マッチング

ネイチャーポジティブビジネスの創出を目的として、経団連自然保護協議会との共催でビジネスマッチングイベントを開催。

生物多様性保全に資する技術を有する中小企業・ベンチャー企業12社が技術等を紹介し、参加者（約150名）とのマッチングを行った。



# 昨年度総会 (R5.2)以降の活動報告

## 第2回地域連携フォーラム (令和5年2月16日)

### 第1部 プレゼン

「COP15 で合意された自治体関連の目標と行動画について」 (イクレイ日本 事務局長 内田氏)

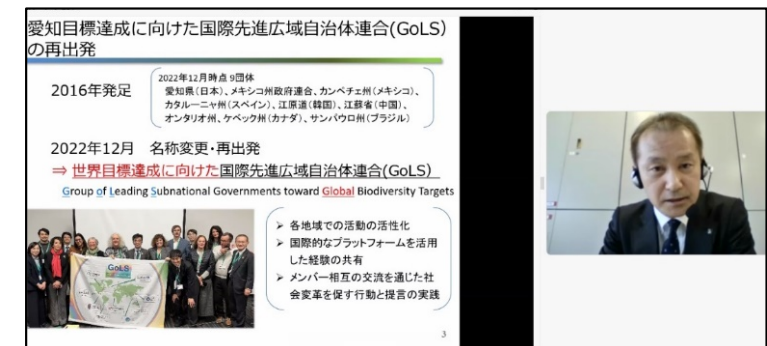
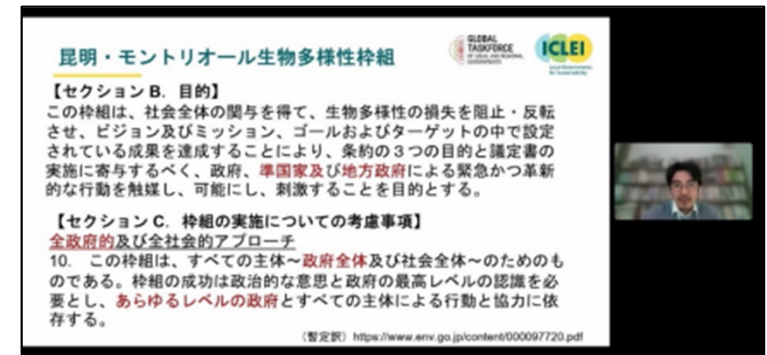
「行動計画の指標について-COP15 の議論と都市と生物多様性指標から」 (東京大学大学院 農学生命科学研究科教授 香坂氏)

「COP15参加報告」 (愛知県、名古屋市、佐渡市)

### 第2部 グループディスカッション

- ① 生物多様性地域戦略における自然共生サイト
- ② 認証制度を活用した地域と企業の連携
- ③ 持続可能な地域と産業 (農業) に向けて

**約120名にご参加いただき、うち60名超が企業からの参加者であるなど、地域連携や生物多様性保全に関する企業等からの注目の高まりが伺えた。**



# 昨年度総会 (R5.2)以降の活動報告

## 第4回行動変容WG (令和5年3月28日)

### 仮想の買い物実験 (支払い意志額 (WTP) 調査) 結果の報告

#### <結果の概要>

- ・30by30のロゴ + 短い説明文 = WTPが6～7円up
- ・説明文を少し具体化 = WTPが更に2～3円up
- ・さらに説明を具体化 = WTP変わらず
- ・自然・環境保全への関心や、生物多様性への知識を有する者の方が、高くてもロゴマーク有の商品を選ぶ傾向

#### ■多段階二肢選択方式 (対照群)



A. ロゴマークなし

140円



B. ロゴマーク付き

?円



### MY行動宣言の活用について

当面は、各構成団体による派生版の作成・活用等を活性化することとした (活用事例の公表、宣言後の行動変容のフォロー等)。

### 生物多様性の主流化に関する活動事例の共有

百貨店の店員によるワークショップ (生物多様性を意識した商品選択等に関するもの) の事例を共有

### 行動変容WGの来年度以降の活動方針に関する議論



# R5活動年間スケジュール（案）

	総会、幹事会、企画委員会	各フォーラム・WG
6月	企画委員会①（6/27） R 5 活動	ビジネスフォーラム、地域連携フォーラム、 行動変容WG企画委員打合せ
7月	支援事業検討員会①（7/4）	
8月	幹事会①（8/1） R 5 活動	
9月	総会（9/12）	
10月		行動変容WG①
11月		地域連携フォーラム
12月		ビジネスフォーラム&ビジネスマッチングイベント
1月		
2月	企画委員会②R6活動	
3月	支援事業検討員会②R6活動	行動変容WG②

※各フォーラム、WG等の時期は今後の検討により変更の可能性あり。  
 ※幹事会②(R6活動)は翌年度当初(5月頃)に実施することを想定。

# R5活動に関する予算

## 【令和5年度 J – G B F 関連予算】

- ・環境省業務：

「令和5年度 J-GBF を通じた生物多様性の主流化推進に係る企画運営  
広報等業務」1,350万円（委託先：EPC） ※30by30アライアンスWeb含む

- ・寄付金：435万円

（積水樹脂様、ダイフク様、サカティンクス様、鴻池運輸様）

※昨年度からの繰り越し分含む

- ・環境省業務：

「つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト」予算の一部

# R5 全体活動① 行動計画について（案）

## ネイチャーポジティブ宣言（抄）

（略）J-GBFは、以下の取り組みを進めることで、ネイチャーポジティブの実現に向けた社会経済の変革を目指すことをここに宣言します。

- 1 我々の社会・経済が自然資本に依存していることを自覚し、豊かな生態系を維持し回復させる社会経済活動の拡大に取り組む。
- 2 生物多様性による恩恵とそれによる人間の幸福をもたらすネイチャーポジティブの実現のため、脱炭素や循環経済、防災、地域活性化などの諸課題も含めた一体的な解決を目指す。
- 3 日本において育まれてきた、地域固有の自然観・文化・産業を尊重する自然資本の持続可能な利用・保全を推進する。
- 4 上記の取り組みに当たり、知見の共有、人材の育成、対話をはじめとするマルチステークホルダーの連携を重視する。

また、これらの取り組みを確実に進めるため、J-GBFによるネイチャーポジティブの実現に向けた社会経済の変革のための行動計画を今夏までを目途に策定します。





# R5 全体活動② 宣言の呼びかけについて (案)

## 【これまでの経緯】

・ネイチャーポジティブ宣言の各所への呼びかけをJ-GBFが行うことについては、R4.12.1幹事会で了承され、R5.2.28総会においても実施していくことを確認した。

・その後、詳細な実施方法について、R5.6企画委員会を始め関係者で議論を重ねてきた。

参考：R5.2.28総会資料

## IUCN-Jからの提案について(案)

IUCN-Jから自身の行動計画に盛り込む案としてR4.12.1幹事会にて提案されたもの。J-GBFがネイチャーポジティブ宣言を各所に呼びかけ（幹事会了承済み）。取組の質の向上のため、IUCN-Jとして認定制度を検討中だが、詳細については企画委員等に相談するとのこと。



[広げる]  
ネイチャーポジティブ宣言を  
呼びかけ、集める。

ネイチャーポジティブ宣言を行った  
自治体、企業、団体等のネイ  
チャーポジティブ実現を後押しする

※今後、企画委員会や幹事会での議論  
を経て、詳細を検討。



IUCN | 日本委員会 — With Member

[伝える: 情報機能の提供]  
・宣言DB運営管理等 (\*\*)  
・ライブラリー & 司書機能

[深める: ラボ機能の提供]  
・宣言から計画・実施と数値化を促す  
ノウハウ、段階認定制度(\*), その他  
・Contribution for Nature (STAR) の有効活用  
・ネイチャーポジティブへの資源動員

[(世界と)つなげる]  
・CBD等への発信や成果の日本への  
還元(国際基準等の日本からの補正・  
提案)

# R5 全体活動② 宣言の呼びかけについて（案）

## 【ネイチャーポジティブ宣言の呼びかけの手順】

- ① J-GBFが、J-GBFとの関係如何によらず広く宣言を呼びかけ。（10月中旬～）
- ② 各団体等においてネイチャーポジティブ宣言を策定。
- ② 宣言を策定した団体等はJ-GBFサイトの登録フォームから宣言を登録。
- ③ 登録された宣言は、J-GBFのウェブサイト等で公表。

## 【これまでの経緯と今後の流れ】

日程	総会・幹事会・ 企画委員会	作業・調整方針
6月27日	企画委員会	概要、スケジュール等について議論
8月1日	幹事会	概要、スケジュール等について議論
9月12日	総会	概要、スケジュール等について説明 ⇒総会にて呼びかけ開始に関する議論・承認
総会以降	幹事会（メール開催）	呼びかけ開始に向けた調整等
10月中旬	プレスリリース	ネイチャーポジティブ宣言の呼びかけ開始

## R5 全体活動② 宣言の呼びかけについて（案）

### （呼びかけの意義、位置づけについて）

- ・ ネイチャーポジティブ実現に向けた機運の醸成。
- ・ J-GBFは、宣言発出を呼びかけ、登録を受け付けウェブサイトに掲載するまでを実施。 ※宣言を行った自治体等への支援等はIUCN-J等のJ-GBF構成団体の活動。

### （宣言の定義、要件について）

- ・ 発出・登録を呼びかけるのは「ネイチャーポジティブを目指す宣言」とする。
- ・ ネーミング、フォーマット、策定プロセス等は自由。
- ・ 最小限の内容の目安として、生物多様性国家戦略（パブコメを経て閣議決定済み）の5つの基本戦略の少なくとも1つに該当する内容を含むこととする。

### （宣言の広がりについて）

- ・ 各界での宣言の広げ方についてはJ-GBF構成団体において検討する。

※ 例えば自治体においては、生物多様性地域戦略の策定が難しい場合に、その前段階の方針整理として宣言発出の機会を活用する等、取組の第一歩として活用することが考えられる。

# R5 全体活動② 宣言の呼びかけについて（案）

## 【参考：佐渡市ネイチャーポジティブ宣言】



### ネイチャーポジティブ佐渡島宣言

今、世界では、カーボンニュートラルに続く国際的な問題として、生物多様性の保全が取り上げられ、「2030年までに生物多様性の減少傾向を食い止め、回復に向かわせる」という地球規模の目標（ネイチャーポジティブ）へのコミットが表明されています。

1981年に野生絶滅したトキを2008年に野生復帰させ、現在569羽にするなど、生物多様性の保全に取り組む佐渡市では、このネイチャーポジティブの実現に向けて、ゼロカーボンアイランドの推進とともに、自然への投資や循環型経済が促進されるよう、次の活動を行います。

- 1 佐渡市では、保護地域および保護地域以外の場所で生物多様性保全に貢献する場所（OECM）が既に30%を超えているが、今後、さらに拡充させること
- 2 他地域の生物多様性を減少させる資源の移入・使用について、現状を把握し、削減に努めるとともに、自然環境や生物多様性の保全を発展的に展開することで、新たな産業創出等につなげること
- 3 トキとの共生を実現した地域として、ネイチャーポジティブに向けた知見・経験を他地域と共有しながら、生物多様性保全のパートナーシップを拡大すること

以上、ここに「ネイチャーポジティブ」を宣言し、地域循環共生圏の創出と安心して暮らし続けられる島づくりを目指して実践することを誓います。

令和4年10月23日

佐渡市長

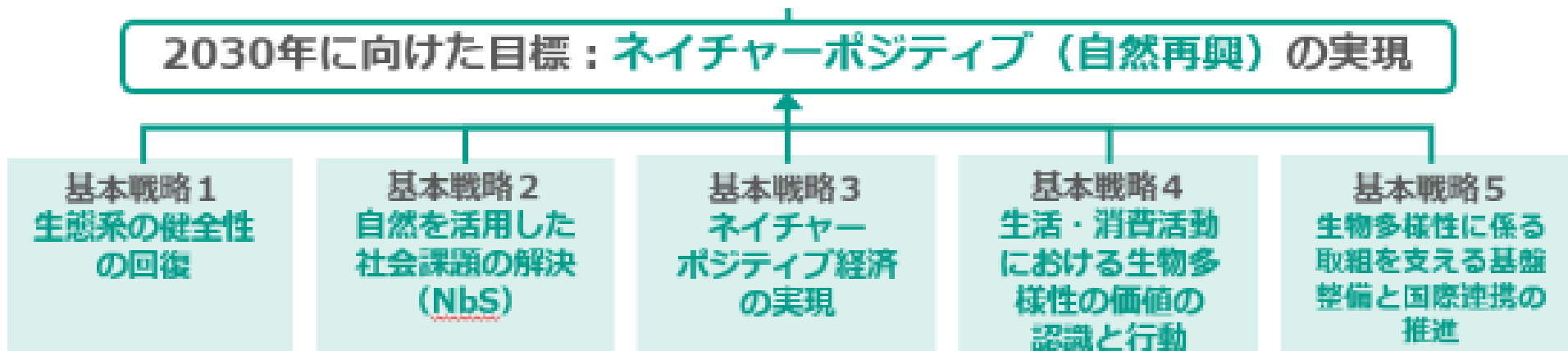
渡辺 竜五

- 1
- 3
- その他



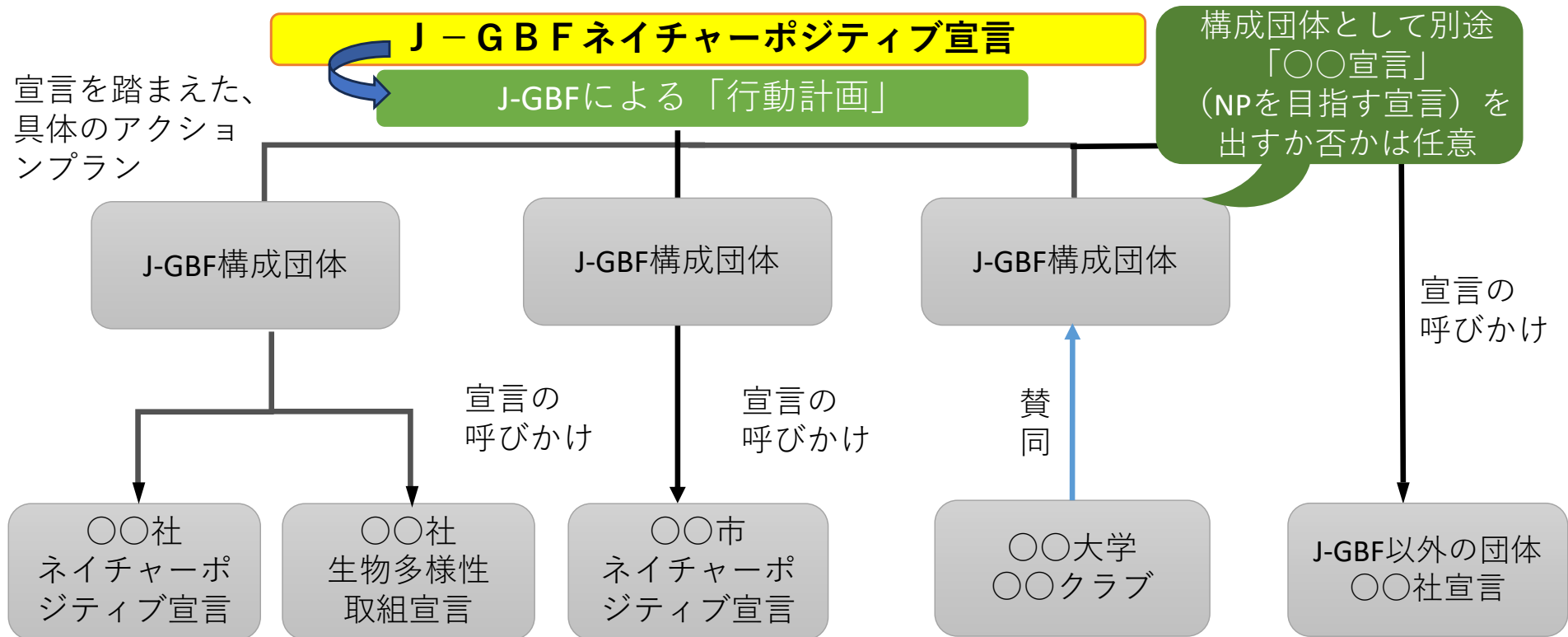
対応する基本戦略の番号  
（事務局付記）

※生物多様性国家戦略2023-2030 基本戦略



# R5 全体活動② 宣言の呼びかけについて（案）

## 【各主体と宣言等の関係について】



個々の宣言がJ-GBFのいう「ネイチャーポジティブを目指す宣言」に当たるかどうかについては、当該個者から（J-GBF構成団体を通じる等して）J-GBFのNP宣言専用サイト運営事務局に連絡があり、当該サイトに何らかの形でリンクが張られたものであることで判断できる。

## R5 全体活動③ 寄附金の活用について（報告）

### 令和5年度 寄附金用途

（収入見込）

昨年度(R4)繰り越し 710,000円  
本年度(R5)受入見込 3,640,000円  
計 4,350,000円

（支出見込）

○ネイチャーポジティブ宣言支援事業 1,000,000円  
・ネイチャーポジティブ宣言の収集および広報の企画運営  
・宣言ポータルサイト(DB)の作成  
○ユース支援(国外派遣) 1,472,000円  
・SBSTTA25、IUCNリーダーズフォーラム、生物多様性に関する自治体国際会議  
○検討会運営費、予備費等 1,028,000円  
計 3,500,000円

（翌年繰越）

850,000円

※支出金額等は現時点の想定。今年度の業務運営の中で適宜調整予定。

# R5 ビジネスフォーラム（案）

**ビジネスフォーラム** 生物多様性に関するビジネス分野（企業等）への情報提供や関心向上に向けた**経済3団体**を中心とするフォーラム

## ● 第3回ビジネスフォーラムの概要（シンポジウム+マッチング）

- 趣旨：ネイチャーポジティブ実現のための社会経済の在り方をビジネスの立場から議論し、自然資本を活用したビジネス創出のための機会創出、支援を行う。
- 日時：2023年12月5日(火) 13:30～18:00
- 場所：経団連会館
- 費用：無料
- 構成（予定）：第一部 13:30～16:00 シンポジウム  
第二部 16:15～18:00 ビジネスマッチング、交流会
- 主催：2030生物多様性枠組実現日本会議（J-GBF）、経団連自然保護協議会
- 協力：経済同友会、日本商工会議所

## R5 地域連携フォーラム（案）

**地域連携  
フォーラム** 生物多様性自治体ネットワーク、イクレイ日本と連携し、地域における生物多様性への知見共有や具体的取組を促すフォーラム

### ● 第3回地域連携フォーラムの概要

○趣旨：地域におけるネイチャーポジティブ実現に向けて、施策推進のための庁内の部局間連携の方法等を議論する。

○日時：秋ごろ（11月）を想定

○場所：オンライン

○構成（予定）：話題提供とディスカッション

「ネイチャーポジティブ実現のための分野横断連携」



# R5 行動変容WG (案)

**行動変容WG** マルチステークホルダーによる、ナッジやポイント制度等を活用した、市民や企業等の行動変容を促す取組を議論・検討するWG

## □令和5年度 取組内容(案)

### ◆行動変容に関する既存の知見の整理

・過去の研究や業務の知見、成果等より参考となる事例を抽出し、ツールとしての活用を検討。

### ◆行動変容促進手法の検討、ECサイト等と連携した行動変容の影響調査・検証

・消費選択に影響を与える要素やそれらの因果関係を分析及び今後の介入実験(現場での実証)の設計

・ECサイト等と連携した生物多様性に配慮した商品選択の調査及び検証

### ◆小売店従業員の行動変容

・従業員自ら、実店舗における環境配慮型商品やサービスを調査し、従業員から来店者(消費者)に環境配慮型商品に対する気づき等創出する施策を検討する。

### ◆生物多様性×「○○○」

・生物多様性以外の分野を入口として、生物多様性に資する取組を行っている(行動を促している)活動の事例を共有・研究。⇒WGでの事例発表を継続。

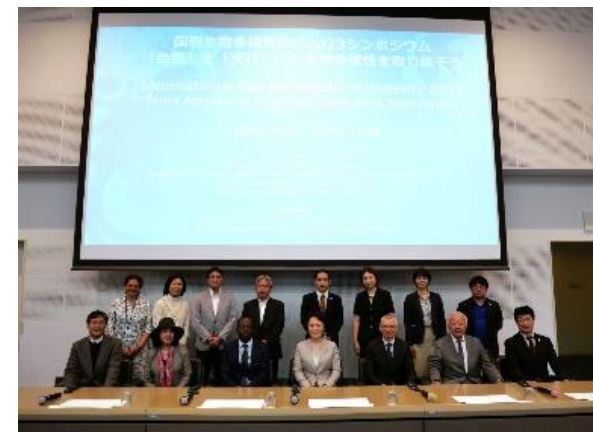
# 連携活動の報告及び予定

## 令和5年度後援等実績

- ・ 国際生物多様性の日 2023 シンポジウム  
主催：国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）  
地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）  
公益財団法人日本自然保護協会（NACS-J）  
環境省
- ・ 図書館を使った調べる学習コンクール  
主催：公益財団法人図書館振興財団  
※2030生物多様性枠組実現日本会議賞を下付
- ・ 日本版気候若者会議2023  
主催：一般社団法人日本若者協議会

## 令和5年度共催予定

- ・ GTFグリーンチャレンジデー 2023年11月4・5日  
主催：GTF グレーター トウキョウ フェスティバル 実行委員会  
共催：環境省、新宿区、TOKYO FM、TBSホールディングス、  
TOKYO MX
- ・ AQUARIUM FESTIVAL 2023  
主催：株式会社イノカ



国際生物多様性の日 2023  
シンポジウム（前列中央は山  
田環境副大臣）



GTFグリーンチャレンジデーの  
ステージ前の様子